

利用・用途・応用分野

胚移植用培養培地、医療分野・畜産分野など基礎研究分野

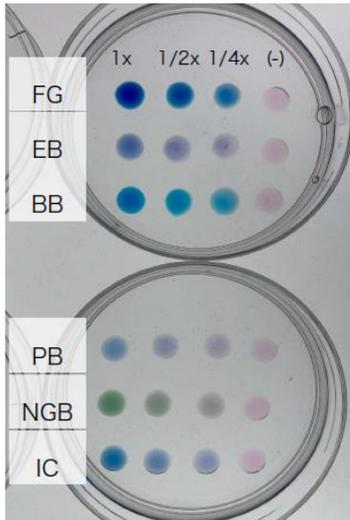
目的・課題



解決ポイント

従来の培養培地は胚移植時にも用いられ、その色調は淡赤色又は無色である。胚を移植する子宮組織や卵管組織の色調も淡赤色であることから、胚を含む移植用培養培地と移植部位が同系の色であり、識別しにくい。子宮組織や卵管組織と異なる色調を有する胚移植用培養培地の開発を目的とする。

【6種類の色素をシャーレにドロップした写真】



- ◆胚移植用培養培地の色調を青色系の色、緑色系の色、紫色系の色又は灰色系の色のいずれかの寒色系の色とする色素を添加することにより、移植部位における胚移植用培養培地の視認性を向上させることができた。
- ◆寒色系の色がRGBカラーモデルにおいてR成分値が80未満であること。
- ◆色素がファストグリーンFCF、エバンスブルー、プリリアントブルーFCF、パテントブルー、ナフトールグリーンB 及びインジゴカルミン並びにこれらの塩、水和物もしくは誘導体からなる群から選択される少なくとも一つであることが好ましい。

- FG: ファストグリーンFCF
- EB: エバンスブルー
- BB: プリリアントブルーFCF
- PB: パテントブルー
- NGB: ナフトールグリーンB
- IC: インジゴカルミン

研究概要・アピールポイント

- ◆色素を含有し、色調が青色系の色、緑色系の色、紫色系の色又は灰色系の色のいずれかの寒色系の色であることを特徴とする胚移植用培養培地。
- ◆胚移植部位における視認性を向上させた胚移植用培養培地であるため、熟練者だけでなく、経験の浅い実施者も胚移植を適切に実施することができる。

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp